松江市立病院研修医ニュース

たわれじ

令和３年
１月
第１１号

コロナ禍での令和３年

教育研修センター長　安部睦美

あけましておめでとうございます。昨年は突然の災害、私はある患者さんからスペイン風邪の話を聞いたばかりのときだったので、100 年前の状況を想像することができませんでした。研修医の先生たちは本当に大変でしたね。やりたいこともできず、十分な研修もできなかったのではないですか？しかしそのような中でもしっかりと日々の研修に励んでいたように思っています。１年次の先生たちはプログラムも新しいものとなり、いろいろなことに戸惑いながらの１年だったのではないでしょうか。そして２年次の先生たちは「さあ、あと１年頑張ろう！」という意気込みの出鼻をくじかれたのではないですか？私たち指導医も初めての経験で、様々な制約の中十分な研修を提供できなかったことは本当に申し訳なく思っています。

明るい話題のない１年でしたが、今年こそは暖かな春が来ることを願っています。そして昨年の分まで素敵な１年になるように頑張っていきましょう。今年も昨年同様 ACP（Advance Care Planning）を提案したいと思います。これからをどう過ごすか？そして過ごしていきたいか？令和３年も大切なキーワードになってくると思います。元気な時から「もし・・・」ということも含めてこれからを考えておきましょう。

来年度は 10 名の新しい研修医の先生を迎えることになります。昨年の経験を生かして新たな研修医の先生方を迎える緊張感をもって新しい年を始めたいものです。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

臨床研修病院としての役割

地域の中核病院としての機能を有する当院において、最新の医療施術及び情報を提供し、病院全体として医師の臨床研修を積極的に支援する。

初期臨床研修

理念

プライマリ・ケアから高度な医療まで幅広い経験を積むとともに、様々な医療従事者と密接な連携のもとで多くの患者に接することにより、医師として必要な人格を育み、広く社会の医療福祉に貢献できる人材を育成する。

基本方針

① 臨床医として必要なプライマリ・ケアの基本的な診療能力（知識・技能・態度）を習得する。

② 人としても信頼される人格・素養を身につけ、思いやりの心を持って患者およびその家族に向き合い患者中心の全人的医療を行える。

③ チーム医療の一員としての役割を理解し、他職種と協働して診療することができるコミュニケーション能力を身につける。

④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。

⑤ 地域の中核病院としての役割を理解し、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し、行動できる。

歯科医師臨床研修

理念

患者中心の全人的医療を理解した上で、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力を身につけ、臨床研修を生涯教育の第一歩とします。

基本方針

① 全人的で科学的根拠に基づいた医療を実践できるよう、歯科医師として必要な基本的診療能力を身に付ける。

② 患者さんの立場に立った人間味のある医療を目指す。

③ メディカルスタッフや地域の医療担当者等幅広い職種の人達とコミュニケーションを十分にとり、チーム医療を推進する。

④ 医療安全の本質を理解し、実践する能力を身につける。

⑤ 歯科医師としての良識と品格を備えるよう努力する。

研修会に参加しました

緩和ケア研修会

10 月 24 日（土）、松江市立病院で緩和ケア研修会が開催され、1 年次研修医 9 名が受講しました。
グループ演習やロールプレイング、ディスカッション等を通じて緩和ケアについて学び、とても充実した時間を過ごしました。

地域がん診療連携拠点病院医療従事者研修会
緩和ケア地域連携多職種カンファレンス研修会

アドバンス・ケア・プランニング
～日々の臨床、そして暮らしの中の対話～

初めてのオンライン病院説明会

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、病院見学が困難な医学生の皆さんを対象に web 説明会を開催しました。
3 回にわたって説明会を実施し、たくさんの学生に参加していただき、とても楽しい時間を過ごしました。

病院長との意見交換会

今年も、恒例の病院長との意見交換会を開催しました。
研修医からの要望や日々感じていることなど、限られた時間の中での交換会でしたが、様々な意見が交わされました。

地域医療の現場から

奥出雲町立　奥出雲病院

院長先生と一緒に。

舌震の“恋”吊橋。

２年次研修医　吉田惇

地域医療研修として、奥出雲病院へ行ってきました。奥出雲病院での地域医療研修は外科と内科を選ぶことができ、将来外科に行こうと思っているので外科を回らせていただくことにしました。地域の病院なので手術の件数も少ないだろうとは思っていましたが、今回の新型コロナウイルス感染症の関係とまさかの農繁期と被っておりいつもより少ないということを初日に知るというハプニングもありました。初日から早速自分がいるのは地域の病院であるということを痛感させられました。手術自体は少なかったですが、術後の患者さんの管理を勉強できました。また、普段はいくことのない訪問栄養や訪問リハビリに同行させてもらえてたくさんのことが学べました。

訪問栄養や訪問リハビリでは、山の奥の方にも同行させていただきこのような地域にも医療を必要としている人がいるというのを改めて実感できました。他にも癌リハなどにも参加させていただき、多職種の人たちが一人の患者さんに対してどのようにアプローチをしていくのかを相談しており、中には地域特有の問題などもあり勉強になりました。１ヶ月という短い期間でしたが、地域医療の現状を知ることができ良かったです。

今回の経験を少しでもこれからに生かせるように頑張っていきたいです。

隠岐広域連合立　隠岐病院

２年次研修医　梅田美琴

７月に隠岐病院へ地域研修に行ってきました！

「夏の隠岐」と意気込んでいましたが、意外にも涼しい日が多く、大変過ごしやすい１ヶ月でした。隠岐病院での研修は主に内科外来と救急外来、病棟業務を行いました。松江市立病院ではちょうど１年前に総合診療科で研修しましたが、隠岐病院の内科外来では健診の精密検査依頼など、またひと味違う診療を経験しました。外来のない時間は救急外来担当でした。

隠岐病院は、ここで対応できなければ本土へ搬送となる、ほぼ最後の砦です。どんな患者さんが来られてもここで診なければとプレッシャーを感じるとともに、指導医の先生方の診療技術、知識の幅広さに勉強せねばと感じる日々でした。

休みの日には隠岐観光もしました。島内をドライブしたり、遊覧船に乗ったり。新型コロナウイルス感染症の影響で観光客の少ない時期でしたので、貸し切り状態で島内を満喫しました！また、隠岐病院の先生方にサザエとりに連れて行っていただいたり、流しそうめんをしたりと毎日がとても楽しかったです。短い研修期間でしたが、公私ともに充実した１ヶ月でした。

お世話になった先生方、ありがとうございました。

サザエ丼がまた美味！

白島崎展望台からの日本海。

医療法人財団公仁会　鹿島病院

２年次研修医　山根史也

令和２年９月に１ヶ月間、鹿島病院で研修させていただきました。

松江市立病院は急性期病院で、慢性期病院に患者さんを紹介することはあってもその後の経過を見る機会は少なかったので、慢性期医療を体験、学習するために鹿島病院を選択しました。

鹿島病院では自分が今まで体験してきた急性期病院とは違い、他職種でのカンファレンスも多く、コミュニケーションが密になされており患者さんの状態、今後の展望等を医療職者全体、さらには患者さん本人や家族とも共有し、設定した目標に向かって歩んでいく姿が大変素晴らしいと感じました。

１つの職種では、患者さんを見る角度がどうしても狭くなってしまうので他職種で患者さんを見た情報を共有すれば多角的に見ることができ、よりよい方向に患者さんを導けるのではないかと大変参考になりました。

この鹿島病院で経験できたことを今後の自分の医師人生に生かせていけたらと思います。

医局の皆さんとパチリ。

往診の現場。

指導医からヒトコト

精神神経科　奥田　亮

「今ここで海を渡ることが禁じられているのは、たかだか江戸の 250 年の常識に過ぎない」吉田松陰の言葉です。「するかしないか、で迷ったら、する」学生時代の恩師の言葉です。この 10 年間医学会では山中伸弥先生を皮切りに 4 人の日本人がノーベル賞を受賞しています。共通するのは行動力と根気。ですが、決して順風満帆だったわけではありません。山中先生は柔道で幾度もの骨折を機に整形外科医を目指します。しかし、研修医時代は指導医の足手まといとなり、山中をもじって「邪魔中」と呼ばれていたそうです。その後の展開は周知の通り。志や行動の力はすごいと思いませんか。

必要な知識や言葉は、心配せずともやっているうちに身につきます。知識や出来に厳しい言葉を浴びせられることもあるかもしれません。でも、問題は行動を起こすか起こさないか。さらに言うと、どう生きるか、どんな志を持つか、です。指導医は研修医の皆さんの志を感じ取っているものです。教える、というようなことはできませんが、ともに自らを陶冶しましょう。

研　修　風　景

＜ACLS 到達テスト＞
全員無事合格しました。

＜職員インフルエンザ予防接種＞
初めて研修医が担当しました。

＜各種レクチャー＞
指導医の先生、いつもありがとうございます。

松江市立病院
Matsue City Hospital
〒690-8509
島根県松江市乃白町 32 番地 1
TEL(0852)60-8000（代）
FAX(0852)60-8005

発行者／松江市立病院病院長　紀川純三　　編集･作成／医事課